

高齢者公益事業部

2015年度は、ケアに関するサービスについて、認知症ケアマッピングの実践やマッパーの施設間交流・育成等、安定期を迎えた。また、介護記録のIT化への検証や、人材育成の一環として一般財団法人 日本老人福祉財団との交流研修を開始する等、新しい試みを始めることができた。

2016年度は、検証を進めてきた介護記録のIT化を継続検討すると共に、介護ロボットの導入を積極的に行っていく。このことにより、職員の負担軽減を図り、入居者への直接処遇サービスの時間を増やしていく。提供するサービスの質の向上を継続できるよう、一部施設の特別介護金値上げを実施し、安定した経営と質の高いサービスを追求していく。

交流研修についても、対象者を中堅職員～役職者へ広げ次世代、次々世代を担う管理職のマネジメント能力の向上へ繋げていきたい。

また、質の追求として2014年度より事業部内で進めているEQC（エデンの園事業の「質の確保」、「永続性及び発展性の維持」を目的とした品質管理システム〔EDEN QUALITY CONTROL〕）は、ISO9001の認証を取得している浜名湖・宝塚エデンの園を除く全施設へ導入が終了し、今後、更なるサービスの質の向上と経営改善に注力していく。

独立採算制となり3年目を迎えた附属診療所は、厳しい経営状況が続いているが、引き続き事業部と施設との協働のもと人員配置の適正化、入院患者数増加等による経営改善を進めていく。

入居者募集活動については、浜名湖エデンの園が2016年度より2年間募集を停止するが、その他のエデンの園はより積極的に募集活動を行い、入居率の安定による健全な経営を実現していく。浜名湖エデン園を除く直営6か所7施設の数値目標として、入居契約件数105件、入園金合計40億円、事業部全体の当期活動増減差額として8.8億円を目指す。

2016年度は、事業部として大きな事業である浜名湖エデンの園の1・2号館の増改築工事が本格的に稼働を始める。準備室を中心として、取り壊しが行われる1・2号館の入居者の住み替えをスムーズに行い、工事期間中安全に工事を進めていくと共にサービスの充実を進めていく。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の確立と実践
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の確立と実践

- (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と自覚
 - (イ) パーソン・センタード・ケア及び認知症ケアマッピングの各施設での実践
 - (ウ) サービス内容の可視化
 - (エ) その人らしく最期まで生活することを支えるサービス（トータルヘルスケア）の実践
 - (オ) エンド・オブ・ライフケアとグリーフケアの推進
 - (カ) E Q C の浸透・実践
2. 経営の安定と永続性の確保
- (ア) 法律改正に伴う体制づくり（コンプライアンス）
 - (イ) 販売対象居室 入居率 95%を目指した募集活動の展開
2016 年度 募集目標の達成（新規契約 105 戸、入園金合計 40 億円）
 - (ウ) ベンチマークシートの活用（項目策定）による経営、運営改善
 - (エ) 環境及び耐久力等を考慮した建物・設備更新
 - (オ) 耐震・老朽化対策計画の策定と実践
3. 人材の採用・育成・定着の強化
- (ア) 人材の採用と定着への環境づくり
 - (イ) 管理職のマネジメント能力の向上
 - (ウ) 事業部内部門別専門研修の拡大
 - (エ) 職員のレベルアップ
 - (オ) 海外研修の計画と実践
4. サービスの質・安全・効率の向上
- (ア) 感染症の拡大（集団感染）防止
 - (イ) 事業部・地域（市、自治会など）と連携した防災体制づくり
 - (ウ) リスク対策の強化
 - (エ) 省エネ・環境対策
 - (オ) 各種調査による改善点への取り組み
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
- (ア) 新しい高齢者住宅の検討
 - (イ) 有料老人ホーム経営・運営ソフトの提供
 - (ウ) 次世代介護の創造と技術の共同開発（介護ロボット、介護備品）

【数値指標】（新規契約のみ）

2016 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	0 件	17 件	15 件	30 件	28 件	8 件	6 件	1 件	105 件
入居率	85.5%	97.3%	92.3%	92.5%	91.5%	100%	100%	86%	93.1%

介護付き有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2015年度は、長年懸案となっていた老朽化した1.2号館の建て替え及び4号館の増築工事の具体的なマスタープランが承認され、新たな第一歩を踏み出すことができた。また、秋にはISO 9001を取得して初めての認定更新をすることができた。そして、筋力測定機能付きトレーニングマシンの導入により、医師、看護師と連携しながら、専任の健康運動指導士や作業療法士がチームとなり、軽い負荷での安全確実なトレーニングを新しい介護予防活動として行うことが、その後、確実に定着してきている。

2016年度は、建築の基本設計から建築申請、そして工事の着手までが予定されている。本格的な工事に入っていくまでの大事な1年となる。今後、何十年と利用していくものであるので慎重に討議して多くの意見を取り入れていきたい。これからの計画が、エデンの歴史に新たなページを加えることになる意識を十分持って取り組む必要がある。完成した暁には建物に魂を吹き込めるよう、そのスタートとなる2016年から、一人ひとりを大切にしたいケアの実践を通して、エデンのあるべき姿をもう一度考え、引き続き浜名湖エデンの園ブランドの確立に取り組む。4年目を迎えるパーソン・センタード・ケア（その人らしさを尊重した介護やサービス）に基づくサービス提供は、ケアサービス課を中心として、その取り組みの成果と課題をエデン全体に発信し、全職場にパーソン・センタード・ケアの意識の浸透を図って入居者一人ひとりの思いに寄り添い、入居者一人ひとりの視点に立ったサービスの提供に努めていきたい。また、昨年に引き続き、介護予防体制の充実にも力を入れ、様々な職種の協同によるチームで、筋肉の維持や活性化を目的に、トレーニングを希望される方々の支援ができればと考えている。より多くの選択肢を用意することで、健康上の問題で日常生活が制限されることなく、入居者がいつまでも元気で健康でいられる「健康寿命」を延ばす努力をしていきたい。食事に関しては、安全安心な食事の提供はもちろんのこと、温冷配膳車の導入など一人ひとりにあったよりきめの細かい対応を目指す。またおいしさにこだわり、より多くの方々に「おいしい」と言ってもらえるような研究を行っていく。入居者募集については、建て替えの都合から、2016年度からしばらく募集停止となるが、新生エデンの園が出来上がるまでの準備は着実に積み重ね、2019年度フルオープン時には満室となるよう入居者数増加につながる活動を続ける。

最後に、職員一人ひとりがお互いを尊重しあいながら、自らの責務を果たせるよう、達成感があり、やりがいのある働きやすい職場環境を整え、職員のモチベーション向上を図っていきたい。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材確保と育成
3. 安定した経営基盤の確立と事業の持続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 未来へ繋がる建て替え計画の推進

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) パーソン・センタード・ケアに基づくサービスの実践と意識の浸透
 - (イ) ISO（標準化）とパーソン・センタード・ケア（個別化）サービスの統合
 - (ウ) 入居時から終末期まで連動したサービス・ケアの実践
 - (エ) 入居者誰もが落ち着いてくつろげる環境作り
2. 次世代を担う人材確保と育成
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承・発展させたサービスの提供
 - (イ) 施設の「事業・運営計画」「予算」を全職員が理解し達成に参画
 - (ウ) 職員（管理職含む）個々のレベルアップ
 - (エ) 職員満足度の向上
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 募集意識を持った行動
 - (イ) 介護保険制度利用のための新たなシステムづくり
 - (ウ) 職員一人ひとりの経営意識向上と、経費節減への取り組み強化
 - (エ) 診療所の赤字幅減少
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) リスク予防の継続的な取り組み
 - (イ) リスク発生時の迅速な対応と再発防止の取り組み
 - (ウ) コンプライアンス体制の強化
 - (エ) 災害発生時の対応力向上と三方原地域の連携体制の構築
 - (オ) 入居者・職員の防犯意識の向上
 - (カ) 充実した労働環境・健康づくりへの取り組み
5. 未来に繋がる建て替え計画の推進
 - (ア) 快適な住まいの実現
 - (イ) 笑顔と自然溢れる環境づくりの検討
 - (ウ) 建て替えに伴う具体的運用の検討
 - (エ) 伝統と創造の融合

【数値指標】

2016 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数/総戸数	280 戸/352 戸		50 戸/56 戸		330 戸/408 戸		
入居者数/定員	323 名/460 名		52 名/59 名		375 名/519 名		
入 居 率	84.8%		89.3%		85.5%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	13 名	17 名	38 名	15 名	11 名	15 名	11 名	120 名

職員数（常勤換算）	119.5 名
-----------	---------

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2015 年度は宝塚エデンの園の中・長期的な運営、経営について考え、課題を明確にする年となった。

当園は、「入居者満足・職員満足・経営安定」を 3 つの柱として事業運営を行っている。園が提供するサービスの質を計る機会として、ISO9001 認証の更新審査に臨み、新たな認証を得ることができた。この認証更新は、目的ではなく更なるサービスの質の向上のための手段と考えている。よって、3 つの柱を支える取り組みとして、Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルによる改善と適正化の姿勢を継続していく。業務効率の改善と品質確保を両立させることで、当園の抱える中・長期的な課題に対応する体制を創っていくことが必要であると考え。

2015 年度は、退去された方が例年に比べ多くなったが、募集活動が効果をあげ予定の入居率を維持することができた。2016 年度も引き続き期末入居率 97%を経営指標とする。

ここ数年、介護保険認定者数の増加に伴い介護に係るサービスの提供時間、人員が増加傾向にある。サービスの質を維持するため介護職員の増員、介護予防への取り組み強化に努めてきた。人員確保に要する支出は全支出の中で大きな比重を占めている。今後、経営の安定を進める上では、現在提供しているサービスの内容と人員配置に関し適正度を再検証していくことが必要である。

トータルヘルスケアの取り組みの中で、2015 年度は終末期ケアへの取り組みを体制化した。2016 年度はパーソン・センタード・ケア（その人を中心としたケア）の実践強化に取り組む中で、介護の質の向上と人材教育の構造化を進めていく。

また、異常気象がもたらす災害に備え、防災・避難計画の再検証を行う。地域交流・地域貢献の考えのもと地元の自治会との協力関係の構築に努めていく。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります
2. 私たちは、ご入居者とともに 5 つ星の施設づくりに努めます
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたいより良いサービスを提供します
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます

【事業・運営計画】

1. 入居者満足の向上
 - (ア) 入居者満足度調査の分析と改善への取り組み(目標：星 4.2 以上)
 - (イ) 楽しみながら食事ができる環境の提供(目標：2015 年度以上の喫食率)

- (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるサービスの実践（パーソン・センタード・ケアの実践）
- (エ) 看取り及びグリーフケアの実践
- (オ) ISO9001 認証の考え方に基づいた品質の向上

2. 職員満足の上昇

- (ア) 職員満足度の分析と改善
- (イ) 接遇力向上と職場・職員間の連携強化
- (ウ) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定
- (エ) 業務内での段階的な人材育成の実践

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動を推進し、期末入居率 97%の確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制強化（円滑な入退院の実現、リハビリテーション体制の強化）
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の確認と実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネルギーの取り組み
- (オ) 新しいサービスの在り方を見出すためのサービス内容と人員配置適正度の再検証

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 感染予防対策の徹底と発生時の連携強化
- (イ) 災害や救命時の緊急対応の強化
- (ウ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域交流と地域貢献活動の実施

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の実証及び連携強化

【数値指標】

2016 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数	349 戸／358 戸		44 戸／50 戸		393 戸／408 戸		
入居者数	414 名／501 名		44 名／50 名		458 名／551 名		
入 居 率	98.6%		88.0%		97.3%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	32 名	11 名	34 名	11 名	19 名	11 名	8 名	126 名

職員数(常勤換算)	136.7 名
-----------	---------

介護付き有料老人ホーム 松山エデンの園

2015 年、開園 35 周年を迎えた松山エデンの園では、将来を見据えてこれまでの活動をベースに、より適切なサービスの提供をすべく見直しを図ってきた。介護予防活動において、従来からの各種機能向上や講演活動等の充実を図り、初の介護棟家族会開催、ドッグセラピーや外部専門家によるフットケアの導入、園内ボランティア活動の確立などの新たな試みと合わせて入居者への更なる安心に結び付けることができた。環境整備においては、安全面に配慮した施設整備や経年劣化による住環境整備とともに共用部の LED 導入をはじめ中長期的な経費節減にも成果が出始めている。食事の提供は一定の評価をいただいております、地産地消を一層推進しながら家庭的な食事を提供し、介護食の充実と併せてさらに工夫を重ねている。

2016 年度は、これらの活動を生かし中期的に園運営を安定させ、安らぎの住まいを継続してご提供していくため、2015 年に引続き各活動の整備並びに検証を続けていく。新規入居者の受入れはもとより、園内各種行事や介護、食事を中心とした各種サービスを 2015 年同様に安定して提供し、各々の根拠を明確にしていきたい。また、地域住民の方々には、介護フェスタの継続や地域防災活動により当園の存在価値を高めていくとともに、松山ベテル病院との連携をさらに深めてより一層入居者の要望に応えていきたい。

【施設理念】

『 明るく楽しく共に輝いて生きる 』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 質の高いケアの提供
2. 安全で美味しい食事の提供
3. 人材の育成
4. 安定した園運営を永続するための入居率の向上
5. 地域貢献・交流の推進

【事業・運営計画】

1. 質の高いケアの提供
 - (ア) 入居者に安心と信頼を感じて頂ける生活支援の実施
 - (イ) パーソン・センタード・ケアの考え方に基づいた認知症ケアの実践
 - (ウ) 入居者の健康管理の積極的支援
 - (エ) 入居者主体の介護予防活動の実践
 - (オ) 入居者の気持ちを大切にしたターミナルケアの実践
 - (カ) 職員・職場間の連携と協力

2. 安全で美味しい食事の提供

- (ア) 多彩な食材・食事の提供による食事満足度の更なる向上
- (イ) 地産食材導入の推進と適正なコスト管理の両立
- (ウ) 生きがいのある生活の支援(介護食の追及)
- (エ) “おもてなし” の心を大切にした食堂づくり

3. 人材の育成

- (ア) 聖隷理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上
- (イ) 園全体でのパーソン・センタード・ケアの考え方の理解浸透、認知症ケアマッピングができる人材の育成
- (ウ) 職員一人ひとりの個性を尊重し個の力を育成するための各種研修参加への積極的支援
- (エ) コミュニケーション能力の向上

4. 安定した園運営を永続するための入居率の向上

- (ア) 新規契約戸数 15 戸 18 名
- (イ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)
- (ウ) 新しい販売方法の検討・導入
- (エ) 全職員一丸となった募集活動への取り組み
- (オ) 費用対効果を考慮した省エネルギー機器設備への更新・転換
- (カ) 職員・入居者への省エネルギーに関する情報提供と啓蒙活動

5. 地域貢献・交流の推進

- (ア) 地域を巻き込んだ防災避難活動、環境保全活動への取り組み
- (イ) 地域行事への参加と協力
- (ウ) 地域の医療・介護連携への参画
- (エ) 職員研修・サービス向上等実務面における医療法人聖愛会との連携強化
- (オ) 入居者の医療サポートの見直し強化
- (カ) 認知症の理解を深めるための公開講座等の開催

【数値指標】

2016 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	104 戸／111 戸		27 戸／35 戸		131 戸／146 戸			
入居者数	122 名／134 名		27 名／35 名		149 名／169 名			
入 居 率	97.2%		77.1%		92.3%			

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	23 名	7 名	8 名	3 名	17 名	11 名	6 名	75 名

職員数(常勤換算)	57.2 名
-----------	--------

介護付き有料老人ホーム 油壺エデンの園

2015 年度、大手同業他法人では入居者虐待、事業撤退等有料老人ホーム事業の根幹を揺るがす事象が社会問題となった。製造業とは違い私たちのサービス事業は生産＝消費であることから、全職員がサービス提供者であり責任者であること、また当園は 30 周年を迎え節目の年となるが、今後も安定した施設運営を守ること、この 2 点の重要性を改めて認識した年であった。

2015 年度は、正面玄関等の改修工事实施、運営懇談会・入居者連絡会のあり方についての協議、4 回におよぶ介護サービス説明会の実施、食事価格改定の協議など園の抱える課題点について入居者と共に考え、具体的改善取組を実施した。これらの事により少しずつ運営面の改善を感じられる年となった。新入居者募集については、入居者の全面的な支援をいただき結果に結び付けることができた。このことは改めて入居者に感謝申し上げる。

さて、2016 年 11 月 1 日当園は 30 周年を迎える。この記念すべき年度に相応しい取り組みとして運営面としては、引き続き全職員へのパーソン・センタード・ケアの考え方の浸透を進めるとともに園バスダイヤ見直し等、入居者の高齢化、身体変化に合わせた取り組みを実施していく。ハード面についても入居者の利便性へ配慮した共用部の改修工事を計画的に進めたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と こころよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安全、安心を基盤とした各種サービスの質向上
2. 自ら考え行動できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネルギーへの取組みと地域との関わり
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安全、安心を基盤とした各種サービスの提供と質向上
 - (ア) パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくケアの実践
 - (イ) 転倒事故防止対策の実践
 - (ウ) 適温で美味しく安全な食事サービスのための質向上
 - (エ) 入居者ニーズに合わせた行事の企画
 - (オ) 要支援・要介護者の増加と重度化への取り組み
 - (カ) 開設 30 周年記念事業検討、実践
 - (キ) 共用部の計画的な改修

2. 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア) 聖隷理念、事業部・施設運営方針の浸透と自覚
- (イ) 職員個々の役割意識の向上
- (ウ) 園内外の情報共有と連携の強化
- (エ) 人材の確保と労働環境の改善

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 販売対象居室（一般居室）の入居率 92%（期末）以上確保
- (イ) 全職員が募集スタッフとして募集活動に参画
- (ウ) 介護保険制度の適正なサービス提供による施設運営
- (エ) 診療所のサービス向上による利用者アップ
- (オ) EQC（EDEN QUALITY CONTROL）の構築

※EQC：エデンの園事業の「質の確保」「永続性及び発展性の維持」を目的とした品質管理システム

4. 環境・省エネルギーへの取組み強化と地域との関わり

- (ア) 地域貢献活動（環境保全）への参加、講演会等の実施検討
- (イ) エコロジー活動による省エネルギー・資源循環活動
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の実践

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 夜間・休日を想定した災害防災訓練のレベルアップ
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した防災体制の検討

【数値指標】

2016 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	352 戸／379 戸	37 戸／45 戸	389 戸／424 戸
入居者数	443 名／500 名	38 名／50 名	481 名／550 名
入 居 率	92.9%	82.2%	91.7%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	(合計)
	15 名	22 名	27 名	15 名	15 名	19 名	11 名	

職員数(常勤換算)	139.5 名
-----------	---------

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2015年度は楽縁プロジェクトが活動2年目を迎え、様々なイベントが入居者参画型に変化し定着してきた。新入居数は予算を上回ることができたが、退去数は過去に例のない多くのご逝去があり園の施設運営に大きく影響した。介護サービスにおいては入居者の高齢化と支援を必要とする入居者が増加したことにより要介護認定者数も増え、結果として介護保険収益が増大した。食事サービスでは意見書の運用を変更することでサービス向上に繋げることができた。喫食率は目標を高く設定したがセカンド利用が増えたことやご逝去が多かったことが影響し達成は困難となった。

2016年度はEQC（エデンの園事業の「質の確保」、「永続性及び発展性の維持」を目的とした品質管理システム〔EDEN QUALITY CONTROL〕）に取り組みサービスの可視化を進める。また、ご入居者の更なる参画型のイベント企画や、より楽しめる食事の提供のため、情報共有と連携のもと良質なサービスの追求を目指す。募集活動においては、担当部署だけでなく職員全員が募集担当としての意識を持ち、それぞれの専門職が商品として価値を創造するよう努めていく。人材育成については、理念の更なる浸透とともに支え合う職場環境づくりに取り組んでいく。安心安全を提供するためにリスク管理を強化しコンプライアンスに則った施設運営と職員の意識向上を図る。経営については、契約締結による適正な介護報酬の算定と効率的な運用及び費用の抑制に努め、施設会計の黒字化を目指す。地域への公益活動では近隣施設（保育園等）との交流はもとより、地域清掃活動や市のイベントへも積極的に参加していく。また地域開放型イベントの開催など地域の方々の来園の機会も増やし、地域に根付いた浦安エデンの園を目指していきたい。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追及
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域社会貢献活動の積極的開催と環境・省エネルギーへの取り組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追及
 - (ア) EQCの職員への周知とサービスの可視化
 - (イ) パーソン・センタード・ケアの園全体での取り組み強化
 - (ウ) 入居者参画型の楽縁プロジェクトの推進
 - (エ) トータルバランスのとれた楽しめる食事の提供及び栄養アセスメントの実施
 - (オ) エンド・オブ・ライフケアとグリーフケアの推進
 - (カ) 一般居室係と生活サービス係の連携強化によるフロントでの入居者支援

- (キ) 苦情の迅速な対応と共有
- (ク) 10 周年記念プロジェクトの立ち上げ
- 2. 働きがいのある職場風土の醸成
 - (ア) 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透
 - (イ) 共に支え合う職場環境作り（思いやる・認め合う・褒め合う）
 - (ウ) 人材育成のための O J T の推進
 - (エ) 研修参加率の向上
 - (オ) 看護・介護ラダーの実施とアセッサーを活用した職員の育成
 - (カ) メンタル不全予備軍の早期発見・対応
- 3. 安心・安全な施設づくり
 - (ア) 感染症発生時の早期対応と感染拡大ゼロ
 - (イ) リスクの分析と対策の強化
 - (ウ) コンプライアンス意識の向上
 - (エ) 職場防災マニュアルの整備と地域防災計画に沿った防災体制づくり
 - (オ) 共同墓苑の入居者への周知
- 4. 安定した施設経営の実現
 - (ア) 各課参画した募集活動の推進
 - (イ) 特定施設入居者生活介護の適正な締結と加算の算定
 - (ウ) 喫食率 1%アップの実現
 - (エ) 職員の経営意識の向上
- 5. 地域社会貢献活動の積極的開催と環境・省エネルギーへの取り組み
 - (ア) 地域清掃活動の企画・参加
 - (イ) 地域開放型イベントの継続的開催
 - (ウ) 近隣と共同の避難訓練の実施
 - (エ) 環境・省エネルギー活動への全職員の意識向上

【数値指標】

2016 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数	187 戸／195 戸		18 戸／29 戸		205 戸／224 戸		
入居者数	213 名／294 名		18 名／30 名		231 名／324 名		
入 居 率	95.9%		62.1%		91.5%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	12 名	8 名	17 名	11 名	8 名	5 名	4 名	65 名

職員数(常勤換算)	70.1 名
-----------	--------

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2015 年度は、開設当初から課題としていた「聖隷横浜病院との 24 時間医療連携強化」に取り組み、入居者・家族に「安心」を提供できる「横浜エデンの園モデル」を目指し取り組んだ。聖隷横浜病院の協力体制もあり、予約・緊急外来受診の受け入れや待ち時間の改善、また緩和ケアチームとの連携が強化し「エンド・オブ・ライフケア」体制も確立することができた。

入居率については、2014 年度期末の 94%稼働からの改善に下半期まで要したが、100%稼働後は入院も少なく、待機登録が増加する傾向に転じた。また、退去がご逝去者 3 名という少なさにも職員全員のサービスが評価されたものと判断する。

開設当初から大切にしてきたサービスの質の原点である「接遇」に着眼し、振り返りを行った。年数を重ねることで、言葉遣いや身だしなみが疎かになっていることがわかり、職員間での注意喚起を促し、原点に立ち戻ろうという意識につながった。

パーソン・センタード・ケア、DCMは職員全体に浸透させることはできたが、具体的なケアの実践に活かせるまでには結びつかなかった。

地域社会との連携は、2014 年度に締結した防災協定で地域の催事へ職員が参加し支援することで地域との連携強化につながった。

2016 年度は、聖隷横浜病院の建て替え工事が予定されている。入居者・家族への綿密な説明を行いながら、聖隷横浜病院との医療連携が維持されていることを示し、安心して生活できる環境を提供していく。

入居率 98%を維持するためには、常時待機登録者の確保確認と退去後の改修期間の短縮を図り入居者・家族の希望に応えられるように対応していく。

接遇をはじめとする人材育成については、サービスの原点に立ち戻り入居者・家族が何を望まれているか把握するためにも、パーソン・センタード・ケアの考え方を実践できるよう教育システムを再構築していく。開設 7 年目を迎える 2016 年度は職員が「初心」に戻り、新たな姿勢で課題を克服できるよう以下に掲げる事業・運営計画の達成に全力を尽くす。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成
3. 経営基盤の安定と永続性の確保
4. 地域社会との連携と協働
5. 環境・省エネルギーに対する意識強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
- (イ) リスク対策の強化（I/A発生後の検討会議の徹底と周知：感染・苦情相談含）
- (ウ) 職員全員へのパーソン・センタード・ケアの実践とDCMの実践
- (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院の緩和ケアチームと医療連携の維持強化
- (オ) 入居者満足度調査結果を評価・分析し改善に向けて取り組む

2. 人財の育成

- (ア) 施設理念・方針を目標参画へ導入し、行動指標を目指す
- (イ) 接遇技術の更なる向上
- (ウ) 教育システムの構築と実践
- (エ) メンタル不全者発症ゼロを目指す

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率 98%の維持
- (イ) 職員全員のコスト意識の強化
- (ウ) 収支構造の改善に向けた取り組みの実践

4. 地域社会との連携と協働

- (ア) 地域防災連携の構築と実践
- (イ) 地域への貢献活動に取り組む

5. 環境・省エネルギー活動への取り組みの強化

- (ア) 入居者と協働したエコロジー活動
- (イ) LED導入を視野に入れ、省エネルギー・エコロジー活動の啓蒙の継続

【数値指標】

2016 年度期末

	2016 年 3 月末	2016 年 4 月 ～2017 年 3 月	計（退去 7 戸除く）
契約戸数	49 戸／50 戸	50 戸／50 戸	50 戸／50 戸
入居率	98.0%	100.0%	100.0%

※退去戸数を 7 戸で計上

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	3 名	6 名	11 名	9 名	4 名	9 名	7 名	49 名

職員数(常勤換算)	47.7 名
-----------	--------

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

聖隷藤沢ウェルフェアタウンは2016年4月に節目となる開園5周年を迎えることができたことについて、入居者・利用者をはじめとする関係者の皆様方の温かいご理解とご協力に感謝したい。

2015年度は有料老人ホーム事業の入居率や特養事業の稼働率の向上・在宅サービス事業も訪問介護事業を筆頭に利用者数が増加する等、経営面において各事業が安定と成長ができた1年間であった。また、運営面においても一番館では生活サービス課と二番館・在宅サービス室が連携して関わることによって様々な面でケアが必要な入居者への許容力を上げることができた。愛光園・各在宅サービス事業は外部事業所との連携も深まり、地域における認知と共に信頼度も上がってきた。他方、運営面においては接遇力の向上、人材の確保・職員教育など聖隷藤沢ウェルフェアタウン全体としての課題や事業毎の改善すべき課題も明らかになってきた。

2016年度は、エデンの園においては、二番館の経営・運営を安定させること、一番館は特に食事サービス部門の改善に取り組んでいく。愛光園はサービスの質の向上を図るための園内教育とショートステイ事業を推進していく。在宅サービスの各事業は利用者増に対応できる職員の確保に努めるとともに、安定した経営を継続していくため各種加算取得を目指していく。また、藤沢市で2016年10月にスタートする『介護予防・日常生活支援総合事業』への準備も必要となる。2016年度も聖隷藤沢ウェルフェアタウンは、各事業は勿論、複合施設としても更に連携を高めて課題解決・改善に取り組みながら“より良いサービスの提供”と“効率的な運営（経営）”ができる施設として成長していきたい。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている

【経営方針】

1. お一人おひとりの意思を最大限に尊重します
2. 各事業が総合化力を発揮し最良のサービスを提供します
3. 地域・社会とのつながりを大切にします
4. 全ての職員が日々成長できる環境を自らが作ります
5. 効率化・業務改善を常に意識し安定した経営を目指します

【年度事業目標・年度重点施策】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 各事業・職場において経営・運営のあり方を再検証する
2. 技術向上、他職種連携ができる職員育成を目指した職員教育
3. 次代に向けた人材確保やボランティア育成の体制づくり
4. 地域包括ケアシステムを意識した地域連携の推進

藤沢エデンの園

藤沢エデンの園一番館は開設 5 年目にして目標であった入居率 95%に到達した。安定した運営や経営をすることで入居者の安心と満足感の向上を図っていく。二番館は一番館の提携施設として役割を果たすとともに、パーソン・センタード・ケアに基づく質の高いサービスを二番館ご入居者に提供できるよう改めて職員教育に取り組んでいく。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. 安心・安全・安定した食事サービスの提供
2. 介護予防活動の充実
3. 根拠に基づいた園・職場の運営を行う

(数値目標)

2016 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	209 戸／209 戸	—	209 戸／209 戸
入居者数	269 名／418 名	—	269 名／418 名
入居率	100%	—	100%

職員数(常勤換算)	52.37 名
-----------	---------

【藤沢エデンの園 二番館】

1. 職員一人ひとりに合った教育の推進
2. 入居者視点のサービスを行う
3. 人材確保と定着

(数値目標)

2016 年度期末

	2016 年 3 月末	2016 年 4 月 ～2017 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	42 戸／50 戸	43 戸／50 戸	43 戸／50 戸
入居率	84.0%	86.0%	86.0%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	0 名	3 名	14 名	11 名	9 名	3 名	5 名	45 名

職員数(常勤換算)	36.66 名
-----------	---------

藤沢愛光園

2016 年度は引き続き、施設目標「地域、ご利用者ひとりひとりのために最善を尽くす」を掲げる。開設からの 5 年間を振り返り、基準・知識・技術を再度確認し、これまで取得した資格や研修にて知識を得た職員の新たな役割により利用者に対するサービスの質の向上を目指す。また、安定した入居率（利用率）の確保はもちろんであるが、適切な費用コントロールによる安定経営を実践する。人材の確保は年々困難な状況であり、2015 年度の E P A 介護福祉士候補生への支援、介護ロボット H A L 導入等からの経験を基に 2025 年に向けた新たな人材確保体制を構築する。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 安定経営
3. 地域との交流・地域への貢献
4. 2025 年に向けた人財確保体制の構築

(数値目標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100 床	20 床
利用者延べ人数	35,405 人	6,753 人
営業日数	365 日	365 日
一日平均利用者数	97 人	18.5 人
稼働率	97.0%	92.5%
単価（1 人 1 日あたり）	14,028 円	13,239 円
総収入	497,240 千円	89,390 千円
職員数（常勤換算）	61.65 人	14.24 人
職員数（常勤換算）	75.89 人	

藤沢在宅サービス

2015 年度は、マイナスの介護報酬改定はあったものの、地域の事業所からの信頼のもと利用者確保ができ、3 事業所の黒字経営に繋がっている。2016 年度は、藤沢市で介護予防・日常生活支援総合事業が開始される。動向を確認しながら、既存のサービス提供のみならず、地域に必要な役割を考え創造し挑戦をしていく。

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

2015 年度は、経常増減差額が 2014 年度比 140.7%となり、安定した経営となった。

2016 年度は、個別性を生かした機能訓練を強化する為に、機能訓練に対する利用者個々の目標設定・実施・評価の質の向上を目標としていく。また、介護職を含め全ての職員がリハビリテーションを実践できることを目標に育成していく。

(数値目標)

	介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益
	平均利 用者数	月利用 者数	年間利用 者数	月利用 者数	年間利 用者数	介護給付 (回)	予防給付 (月)	
一日	24 件	624 件	7,493 件	18 件	216 件	9,850 円	40,978 円	90,370 千円
半日	3 件	65 件	784 件	—	—	6,500 円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

2015 年度は、離職率 57%であり、特定事業所加算Ⅲの取得と新規利用者の受け入れができず、経営的には不安定な状況であった。

2016 年度は、介護支援専門員 1 年目 2 名とともに、働き続けられる職場環境整備と介護支援専門員としての質の確保ができる共育体制の構築を図る。

(数値目標)

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,162 件	600 件	12,477 円	4,208 円	64 件	5,000 円	17,370 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2015 年度は介護給付の訪問件数が前年度より 100 件以上と増えたこと、2015 年度初めに介護保険法、障害者総合支援法での特定事業所加算Ⅱを取得することができ、安定した経営につなげることができた。2016 年度も利用者や地域事業所から選ばれる事業所として職員の育成、人員の確保、必要なサービス体制の整備に取り組んでいく。

(数値目標)

介護給付			予防給付		総合事業		自立支援	
平均利用者数	月訪問数	年間訪問数	月訪問数	年間訪問数	月訪問数	年間訪問数	月訪問数	年間訪問数
41 名	574 件	6,882 件	136 件	1,632 件	27 件 ※2016 年 10 月より	160 件	290 件	3,480 件

単価				サービス活動収益
介護給付 (回)	予防給付 (月)	総合事業 (回)	自立支援 (回)	
3,479 円	14,384 円	1,800 円	4,076 円	47,410 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2015 年度は退職者が少なく、安定した人員で運営ができた。自宅での看取りも増え、医療保険の機能強化型 2 の加算算定を継続できている。一方、30 分訪問やエデン入居者（同一建物）の訪問が増加傾向で減算があり、下半期では医療・介護保険ともに訪問単価が予算に対して未達であった。

2016 年度はデイサービスや定期巡回随時対応型訪問介護看護との連携を行い、さらに地域に信頼される訪問看護ステーションとなるよう取り組んでいきたい。

(数値目標)

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価	サービス活動収益
95.6 名	617 件	7,402 件	9,716 円	71,870 千円

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2015年度は、2014年度に引き続き有料老人ホームの一般居室が高い契約率を維持する中、介護居室の迅速な住み替えを推進することで運営の安定化を図った。また、在宅部門では、西大和地区への事業集約化のために奈良地区の事業を廃止した。経営面においては、奈良ベテルホームが渉外活動の強化により経営の安定化を図るとともに、西大和地区の在宅事業が地域の利用者を支えるために連携し、在宅事業全体の経営改善に積極的に取り組んだ。サービス面においては、園内で認知症予防短期集中プログラムを開始するなど、頭の健康管理（MC I）や運動機能管理、栄養管理の3つを柱として介護予防プログラムの取り組みを強化した。また、地域住民を対象とした町主催の介護予防教室に職員を講師として派遣するなどの他、地域防災活動や奈良ニッセイエデンの園学会開催など地域と連携・交流を深めながら実施した。

2016年度は、複合施設の強みを活かし、地域のニーズをより深く理解し、より多くの利用者に選択される施設となるよう、更なる渉外活動を強化していく必要がある。運営面においては、介護予防活動を継続すると同時に、入居者とともに認知症への理解を深め、WAC事業を推進すると共に、園としての地域包括システムを構築していく。また、入居者に対して、早期にエンド・オブ・ライフケアについて、「ともに考え」、「ともに生きる」という活動を開始する。人財育成においては、サービスにおける「エデン品質」を高めながら、職員一人ひとりが「最も信頼できる隣人」としての「エデンプライド」をもってサービスを提供できる人財を育成する。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践
 - (ア) エンド・オブ・ライフケアの推進
 - (イ) 利用者にとって安心で快適な「家」の提供
 - (ウ) 複合施設としての価値の確立と施設連携モデル図の実践
 - (エ) 楽しさの創造、利用者参画型サービスの提供
 - (オ) 食べる楽しみの追及と提供
 - (カ) 介護予防の取り組みの強化
 - (キ) 生活リハビリテーション等による自立支援の促進
2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 複合施設の強みを活かした地域ニーズの積極的な受入体制の確立
 - (イ) 安定運営のための収益確保
 - (ウ) 地域支援事業への積極的な参画

- (エ) 募集機能の強化と連携
- (オ) 経営指標の可視化共有による経営意識向上
- (カ) 業務・サービス内容の数的把握と効率化
- 3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 介護ラダーの目標参画への定着と介護キャリア段位制度の浸透
 - (イ) 看護ラダーの運用の定着
 - (ウ) OJTを推進できる次世代を担う人財育成
 - (エ) 他施設との横断的な人財交流の推進
 - (オ) 専門研修への計画的参加と専門資格の取得支援
 - (カ) 人財の安定確保への取り組み
 - (キ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み
- 4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染対策の徹底と集団感染の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) EQC (EDEN QUALITY CONTROL) の推進
 - (エ) 生活環境の見直しと改善
 - (オ) コンプライアンス意識の向上
 - (カ) 会議・委員会の効率化
 - (キ) 省エネルギー活動の継続
- 5. 地域及び他施設との連携・交流
 - (ア) 地域における介護サービスの拠点となる
 - (イ) WAC施設としての地域貢献と他施設連携の強化
 - (ウ) 利用者とともに地域防災拠点としての施設防災体制の確立
 - (エ) 地域における「学び」の拠点となる

有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2015 年 12 月末現在において、入居契約件数 394 戸（一般居室 352 戸、介護居室 42 戸）入居率は 96.6%（一般居室 97.2%、介護居室 91.3%）である。また、入居者の平均年齢は全体で 81.7 歳である。

2016 年度は、健幸生活プロジェクトの継続とともに、園内地域包括ケアシステムの構築により、入居者に最善のサービス提供ができる環境づくりを行う。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 施設内連携を実践し、エデンブランド・エデン品質の構築を図る
 - (イ) 美味しい食事、楽しい食事、健康な食事を合言葉に食べる楽しみの追求と提供
 - (ウ) 『健幸生活』『MC I チェック』を軌道に乗せ、介護予防を推進する
 - (エ) エデンいきいきプログラムの内容の見直しを図り、効率的な運営を行う
2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 適正かつ迅速に住み替えを推進する

- (イ) 他課と連携して、看取りの仕組み作りと加算体制の強化を図る
- (ウ) 入居者ニーズに合わせた行事企画を推進し、且つ効率的に運営を行う

3. 人材の育成・活用・定着の強化

- (ア) 介護ラダーを活用したO J Tの階層別の実践
- (イ) 接遇向上のため、接遇事例を全員で共有し、改善に努める
- (ウ) O J Tを活用し、自ら考え動ける職員の育成に努める
- (エ) 他施設・他部署との計画的な交換研修を推進し、職場の活性化につなげる
- (オ) 職員一人ひとりのメンタルサポートを行い働きやすい職場環境を目指す

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) マイメモリーシートを共有し、追加情報の記載強化を図り、入居者へ細やかなサービス提供に活かす
- (イ) 『園内地域包括システム』造りの取組みと終末までのトータルケアの構築
- (ウ) E Q Cシステムの推進によりサービスの標準化を図る
- (エ) 危険予知トレーニングやリスク分析能力を高め、事故防止に努める
- (オ) DCMを継続し、パーソン・センタード・ケアの浸透を促進する

5. 地域及び他施設との連携・交流

- (ア) W A C施設としての地域との関わりの拡大を目指す
- (イ) 地域におけるケアの発信拠点となる
- (ウ) 施設の防災体制の確立し、災害時の地域の防災拠点を目指す
- (エ) 地域ボランティアの登録・活用

【数値指標】

2016 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	358 戸／362 戸	41 戸／46 戸	399 戸／408 戸
入居者数	454 名／549 名	42 名／49 名	496 名／598 名
入 居 率	98.9%	89.1%	97.8%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	31 名	22 名	36 名	22 名	8 名	8 名	8 名	135 名

職員数(常勤換算)	93.51 名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

高齢者総合福祉センター

2015 年度は、企画・主催する、すべての講座・イベントにおける「質の向上」と「更なるゆしみ」へと繋がるものとなるよう取り組んだ。結果として、講座継続率の向上及びイベントでの申込み者参加率を大きく向上させることができた。

2016 年度では、地域におけるこれからの「ふれあいプラザ」の在り方を見出し、近隣自治会など関係団体と連携して期待される役割をはたす。

介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2015 年度は、安定した経営基盤を確立する為に、渉外・広報活動及び利用者管理の強化を実施した。その結果、入所・ショートステイに関しては予算達成した。通所リハビリテーションに関しては上半期予算未達であったが、10 月に運動・物療機器を導入し、下半期は予算数値を達成できた。また備品・設備等の老朽化に伴い、2016 年度にかけ整備計画を順次進めていく。

2016 年度は、経営面において引き続き収益確保・予算達成を目指し事業運営の安定化を図る。また、ケア面においては利用者一人ひとりの個別ケアの充実、サービスの質の向上を図る。

ニッセイ聖隷クリニック

2015 年度は、緩和ケアへの理解と本人が望む終焉など看取りへの付加や個別ケアを充実させた。複合施設の強みを活かし介護居室への住替えに積極的に協力し、ベテルホーム入居者の入院受入れ体制作りのほか、整形外科を再開し患者集客に努めた。

2016 年度は、診療報酬改定への対応と消費税 10%対策、外来・病棟環境の整備、リハビリテーションや健康診断等の業務改善や見直しなど、医療費抑制が進むなか安定した診療所運営を図りたい。

ニッセイせいの在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2015 年度は、介護保険制度改定により介護報酬単価は下がったが、訪問介護・福祉用具貸与事業の利用者増による収益増によって、大幅に予算を達成した。

2016 年度は、新規利用者を更に獲得し、中・重度利用者の対応ができるよう、喀痰吸引やターミナルケア・福祉用具事業などサービス提供体制の充実を目指す。

訪問看護ステーション西大和

2015 年度は訪問看護の専門性を発揮し、幅広い訪問への関わりを積極的に行うことや、リハビリテーションの需要増に対応するためリハビリテーションスタッフを増員、事業運営の安定を図る事ができた。

2016 年度は訪問看護の医療保険利用者の実費負担見直しによる件数獲得と、エリア拡大に向けた渉外活動を行い新規利用者の獲得を目指す。

ニッセイせいのケアプランセンター西大和

2015 年度は、介護保険制度改正に対応し、特定事業所加算Ⅱ取得継続を行いつつ、介護支援専門員の定着を図り、ご利用者・ご家族・地域からより信頼される事業所を目指した。

2016 度は、事業所全体でご利用者やご家族を最期まで支え、地域包括ケアシステムの一端を担うプライドを持ってより良いサービスを提供しながら、医療・介護・地域などと連携を図る中で、新規利用者の獲得に努め、安定した事業運営を目指す。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2015年度は、ここ数年の利用者の平均年齢上昇により予測されていた逝去に伴う退園数増が現実化した。他施設の経験を踏まえると、今後数年間は、こうした傾向が続くものと思われる。とは言え、堅調な入居者募集活動は維持されており、一般居室については年間を通してほぼ満室の状況であった。しかし、90歳以上の入居者が70名余り、平均年齢84歳、介護認定者135名となり、医療や介護を必要とされる入居者の対応に、全職場・全職種の横断的な対応に苦心しながらも全職員が協働した一年であった。

2016年度は、更なる退園者増による経営的なマイナスを最小限に留めるため、全職員が募集担当としての意識を持ち、高い入居率維持のために業務を通じた募集活動への支援を継続していき、健全な園の運営を行っていきたいと考える。また、従来からの運営方針同様「入居者参画」「地域連携」をキーワードとして、より満足度の高いサービスの提供を実施していききたい。

まず、認知症対応については専門看護師・認定看護師を中心に認知症専門医・精神科医や言語聴覚士の協力を得ながら構築してきた園内での早期発見・早期診断・早期対応のシステムを向上させるとともに、医療・介護サービスが有機的に連携し、認知症の容態に応じて切れ目なく提供できる循環型のシステムを構築する。それに連動し、介護予防活動やデイサービス機能についても提供日やメニューの拡大に取り組む。また、感染症対応についても園内での二次感染をゼロにすべく職員の意識向上と万全の対応を常に心掛ける。次に、20周年プロジェクトやEQC（エデンの園事業の「質の確保」、「永続性及び発展性の維持」を目的とした品質管理システム〔EDEN QUALITY CONTROL〕）の活動を本格化させ、節目となる2017年春に向け、松戸ニッセイエデンの園に関わるすべての人々が共有し遂行する目標として定めた「松戸ビジョン」の具現化を図り、プロが支える「我が家」の実現と名実ともにエデングループの旗艦施設となることを目指す。

地域社会向けにはWAC施設という特徴を生かすとともに、松戸市からの災害時の一次避難所指定を受け、近隣の松戸愛光園、松戸市立福祉医療センター東松戸病院との連携を深めていく。環境・省エネルギーへの取り組みは、入居者参画型の松戸ニッセイエデンの園エコロジー宣言を基本に、実践した取り組みを評価し、継続して取り組んでいく。

以上を踏まえ、以下のような2016年度の重点目標を掲げ、目標達成に向けて取り組みたい。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”と思っただけのような施設づくりを目指します

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化

6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネルギーへの取組み強化

【事業・運営計画】

有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
 - (ア) 入居から看取りまでを支えるトータルケアの実践
 - (イ) 情報共有の推進とさらなる活用
 - (ウ) 入居者参画型の企画・行事の充実
 - (エ) 健康・快適な暮らしのための食生活支援
 - (オ) 20周年プロジェクトの推進
2. 人材育成
 - (ア) 聖隷理念の継承
 - (イ) 専門職の育成
 - (ウ) 専門看護師・認定看護師等の活用
 - (エ) やりがいのある職場風土の醸成
3. 経営基盤の安定
 - (ア) 全職員が対応する入居者募集
 - (イ) 介護保険の請求率アップ
 - (ウ) 一時介護室及びクリニック病床の適正利用
 - (エ) E Q Cの推進
4. リスク管理体制の強化
 - (ア) 感染予防対策の強化
 - (イ) 災害対策の更新と充実
 - (ウ) I AのP D C Aサイクルの徹底
 - (エ) メンタルヘルス予防活動の継続
5. 社会・地域への貢献と連携
 - (ア) W A C施設として、地域向け介護予防活動の提供
 - (イ) 広報活動の充実と園行事の地域への発信
 - (ウ) 入居者参画の省エネルギー・環境対策の推進

【数値指標】

2016年度期末

	一 般 居 室	介 護 居 室	計
契約戸数	311戸/315戸	33戸/37戸	344戸/352戸
入居者数	390名/419名	34名/37名	424名/456名
入 居 率	98.7%	89.2%	97.7%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	27名	12名	35名	21名	11名	15名	10名	131名

職員数(常勤換算)	92.45名	※有料老人ホーム部分
-----------	--------	------------

診療所 「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

2015 年度は園全体においては、入居者の高齢化に伴う逝去者が増加したが、そのうち 64.3% の入居者が当クリニックでの看取りとなっており（自室逝去者除く・2015 年 12 月末時点）、従来からの目標であった「ご入居者の満足に繋がる医療・看護のサービスの提供（看取りまで）を目指す。」という目標達成に向けて着実に前進していることが実感できた年であったとともに、園におけるクリニックの存在意義を高めることができた一年となった。これは医師・看護・メディカルをはじめとした医療体制の充実ならびにチーム医療の実践の成果であったと捉えている。

外来においては新規に神経内科を開設及び精神科・形成外科も診察枠を増加し、入居者にとってより専門的な医療を身近で受けることが可能となった。またCT装置の導入・活用により、疾病の早期発見・治療へとつながった。

今後も開設 20 年目を迎え、入居者の高齢化が進んできており、入居者の心と身体の衰えに対応することが急務である。各職種におけるそれぞれの専門性を活かしたサービスで、また最新医療機器の整備により検査精度の向上と迅速な確定診断を行うことで、入居者、利用者へ安心と信頼を提供する。そのため以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組みたい。

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践
- (イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上
- (ウ) 看取り看護の充実

2. 人材の確保・育成

- (ア) 専門職としてのスキルアップ
- (イ) 園内教育、研修制度の変革
- (ウ) 専門職の確保と離職防止

3. 経営基盤の安定

- (ア) ベッド稼働率（84%）の向上
- (イ) CTの有効活用による収益性の向上

4. リスク管理体制の強化

- (ア) I A (レポート) システムの有効活用

5. 環境、省エネルギーへの取組み強化

- (ア) コスト意識を持った環境、省エネルギーへの取組みの更なる実践

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,450円	243日
入院部門	16.0名	11,000円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	730名	840名
職員検診	195名	

高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2016年度は、新規入居者が増加しているため需要を確認し、新たな教室起ち上げを検討する。コンサート・イベント等については、入居者の参加者数が減少してきているため、企画や開催方法の見直しを図りたい。入居者が余暇活動を通じて地域と交流し、交友関係を広げ、松戸ニッセイエデンの園での生活を充実できるよう支援していく。

1. 新規教室の開講とイベントの企画・開催方法の見直し
2. 広報活動による地域との交流
3. 入居募集の支援

ニッセイエデン・ヘルパーステーション

1. 2016 年度事業計画

介護保険改定における日常生活支援総合事業における動向についての的確に情報収集をするとともに迅速な対応を図る。収支増加を図るべく事業拡充を積極的に行う。特に園内の有償サービス（ベル）の拡充に注力していきたい。

国の施策において地域住民運営のサービスが活発化していく中、地域に根ざす事業所の在りとして地域貢献について検討していきたい。

2. 2016 年度重点施策

（ア）事業所力の向上

- ①事業拡充による収支の増加 安定
- ②ベル事業の拡充
- ③専門性を持った職員の育成
- ④地域との連携強化による地域貢献

営業日数＝312日（月平均26日）

	件数/日	単価/件
介護給付	25名	3,880円
予防給付	14名	18,000円

※有償サービス

件数/月	単価/件
14.7名	10,000円

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2016 年度、明日見らいふ南大沢は開設 20 周年を迎える。2015 年度は、将来に渡り「安心・安全」を維持、向上していくための基盤づくりの年と捉え、施設の課題を整理・分析・検討を行い、これから目指すものを明確にするための取り組みを行ってきた。継続検討を要する項目は残るが、2016 年度はこれらの検証から得られたものを基に、新たな目標を掲げ達成に向けて実践していく。

明日見らいふ南大沢の入居者平均年齢、性別比率、要介護認定者数、生活様式をはじめとした内部環境、また今後の国の経済状況や介護保険制度の改正等の外的環境等、わたしたちを取り巻く環境は多様な関係から構成されており、加えて今後これまで以上に早いスピードで環境が変化していくことが推測される。各部門・職場は入居者の視点を大切にした上で、これらの変化をいち早く掴み、考え、実践していくこと、さらには聖隷福祉事業団が中期事業計画に掲げる「最高の質を追求し提供する」という言葉を充分理解し、目標を設定し業務を遂行することに注力する。

また 2016 年度は「これまでの明日見を超える明日見づくり」をテーマに、短期および中長期的視野に立ち、これまで以上に「提案・改善・改革」が出来る組織づくりを目指す。そのためにも管理者から職員一人ひとりまでが、「聴く力」「考える力」「応える力」を磨き、バランスよく活用し、声にして行動していく。

2016 年度も、入居者には「明日見らいふ南大沢で暮らす幸せ」を感じていただけるよう、職員は「明日見らいふ南大沢で働くことへの幸せ」を感じとれるよう、一丸となって運営に取り組んでいく。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・安全の施設づくり
3. 「提案・改善・改革」の実践
4. 人材確保と育成の強化

【事業・運営計画】

1. 『いきいき』『あんしん』の提供
 - (ア) すべての入居者へ「健康長寿」を目指したサービスの提供
 - (イ) 一人ひとりを、より大切にしたいケアとサービスの実践
 - (ウ) 入居者、家族と共に実践する「看取り介護」
 - (エ) 認知症ケアの啓蒙

2. 人材の育成

- (ア) その時その場が育成の機会（O J Tの強化）
- (イ) 職業人としての技術と意識の向上
- (ウ) 働きがい、生きがいを感じる職場環境づくり

3. さらなる効率的な運営

- (ア) 改善・改革の提案と実践（ムダ・ムラをなくし、新たな価値を創造する）
- (イ) 業務における 5W2Hの明確化
「いつ（W h e n）どこで（W h e r e）だれが（W h o）なにを（W h a t）
なぜ（W h y）どのように（H o w）いくらで（H o w m u c h）」

4. 地域に開かれた施設づくり

- (ア) 地域における施設の価値創造（自治会との災害時協力等）
- (イ) 行政、企業、地域との協力、連携（認知症理解への啓蒙活動、各種イベントの共催等）
- (ウ) 地域活動への積極参加

5. 環境・エコロジー活動への取り組み

- (ア) 入居者と共同・協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）
- (イ) 環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）

6. 入居者募集

- (ア) セミナー他、公社募集業務への協力と連携

【数値指標】

2016 年度期末

	一般居室		介護居室		計		
契約戸数	301 戸／317 戸		45 戸／53 戸		346 戸／370 戸		
入居者数	352 名／482 名		45 名／53 名		397 名／535 名		
入 居 率	95.0%		84.9%		93.5%		

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17 名	14 名	34 名	17 名	9 名	10 名	11 名	112 名

職員数（常勤換算）	104.13 名
-----------	----------